

Ⅱ. ロアッソ熊本の震災直後からこれまでの活動

日 時：平成 30 年 1 月 25 日 (木) 10:00 ~ 11:30

訪問先：ロアッソ熊本

担当者：織田秀和氏 (ゼネラルマネージャー)、筑城和人氏 (強化担当)、首藤崇氏 (事業部次長)

報告者：スポーツ研究所所員

(佐竹弘靖、佐藤満、吉田清司、飯田義明、齋藤実、渡辺英次、
平田大輔、富川理充、時任真一郎、李宇諤、相澤勝治)

1. 熊本地震の概要

飯田 ロアッソ熊本のフロントで、震災復興のボランティアなどを最前線に立って活躍された首藤事業部次長に、震災後、ロアッソ熊本の関係者がどのような活動をされてきたかお話しいただきたいと思います。

首藤さんは熊本の犬津高校出身ですが、サッカーはしていらっしゃるようでした。ただ、昨日お会いした宇城市教育委員会で教育長を務められている平岡先生に体育の授業を習っていたそうです。世界は狭いですね。それでは、今日はよろしくお願いします。

首藤 皆さん、おはようございます。お寒い中お越しいただきありがとうございます。首藤と申します。ロアッソ熊本の立ち上げから関わり、今年で15年目になります。犬津町出身で、まさに平岡先生とはご近所で交流もあります。

2月にデンソーカップという大きなサッカー大会を犬津町で開催し、地元のサッカー人と

しても犬津町民としても、大変ありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(熊本地震の説明)

熊本地震のことは皆さんもご存じだと思いますが、2016年4月14日午後9時25分、前震といわれるマグニチュード6.5の地震、次いで4月16日、夜中の1時25分に本震が発生しました。

熊本日日新聞という地元紙の号外も配布されましたが、1回目の前震の後で既に熊本城が崩壊したというショッキングな内容もありました。一番被害が大きかったのは益城町です。

本震といわれる2回目の地震では、マグニチュードはさらに大きくなりました。ニュースでも取り上げられましたけれども、阿蘇市の大学生が車でちょうど通りかかったところを土砂にのまれ行方不明となり、数カ月後にご遺体で発見されました。そこは私の地元の犬津町の隣です。南阿蘇という地域で、阿蘇と熊本

市を結ぶ一番の大きな国道に200mの橋が架かっておりましたが、土砂によって崩落しました。

本震のほうが、被害が大きくなりました。昨日、行かれた宇城市の隣の宇土市役所の庁舎は、4階部分が押しつぶされかけました。

こちらは私たちの事務所です(資料1~3)。出勤した社員が写真を撮って送ってきました。私たちが普段仕事をしている事務所は、天井からエアコンダクトが落ちてきたり、普段だと絶対動かない重いプリンターや金庫類が動いたり、道路に面している窓ガラスに亀裂が入り、朝来た時には歩道にガラスが散乱していました。事務所の隣に県立熊本工業高校があり、また県庁も近く、小学生も通るので、通勤、通学など時間帯によっては大変なことになっていました。

これは私の自宅のキッチンです(資料4)。なぜこんな所にこれがあるのか、トースターが反対側のカウンターのほうに行っていたり、冷蔵庫も動いたりしていました。倒れかかっている



資料1



資料2



資料3



資料4



ロアッソ熊本メインスタジアム「熊本えがおスタジアム」

のは食器棚です。真ん中の写真は、引き出しが飛び出て、目の前で植木鉢が飛んでひっくり返るのを見ました(資料5)。一番右が子どもの部屋です(資料6)。ちょうど小学校1年生で、入学式を11日に迎えて、まだ学校に数日しか行っていませんでした。ランドセルの中身が散乱し、子どもも大変ショックを受けました。

新聞は発行されましたけれども、実際にはなかなか手元に届きませんでした。テレビも停電が長かったので情報を仕入れることができず、大変な状態になっていることは数日後に分かったのが実際のところでした。水道もガスも止まった状態で車中泊です。本震があった後も1時間ごとに大きな揺れがあり、家の中にいるのも危ない、本当に家にいるのが怖いので避難所

に向かいましたが、避難所も人でパンク状態、人で溢れていました。近所の公園に車が300台ほどありましたが、私たち家族も5日間ほどそこで車中泊をしました。

2. ロアッソ熊本の活動(クラブ、チームの動き、主な行事 ※時系列、資料7)

1回目の前震も大きな地震だという認識は皆ありましたが、何とか生きてはいける状態だったので、その時は、ロアッソ熊本の明日の練習はどうなるのだろうかというレベルで考えていました。14日が木曜日で、週末に京都でアウェイ戦を控えていたので、15日にはトレ

ーニングを通常通り行いました。京都、関西には影響がなかったので、福岡までバスで行けばどうかなという行程を組んでいました。

ホームゲームに関しては、難しいかなという認識でした。スタジアムは練習場と同じ敷地にありますが、避難所、自衛隊と警察の緊急詰め所、支援物資の集積所になっていましたし、一時は二千数百人の方がそこを拠点とされていました。

その後15日の夜中に本震が発生し、アウェイゲームどころか自分たちの身の危険さえ感じる状況であると認識したので、一旦チームを解散しました。トレーニングはいつもこのグラウンドで行っていますが、救援ヘリコプターの発着所になる可能性があります。補助競



資料5



資料6



ロアッソ熊本 サブグラウンド

技場をご覧になったと思いますが、こちらが自衛隊のメインのヘリ発着所になっていました。ラグビー場とサッカー場がありますが、どちらも随時そうなる可能性があります。練習ができないため、チームは一旦解散。リーグ戦の日程などが決定するまで、選手は県外の地元や、外国人選手は母国に帰ったということもありました。

今も在籍しているゴールキーパーの畑選手が家族と一緒に益城町のホテルエミナースで避難生活をしていました。そこで2、3日過ごしているうちに、子どもたちが退屈しているという反応を目の当たりにして、19日、LINEの選手グループに、“地元にいる人は子供たちとサッカーしませんか”という投げかけをしています。十数名の選手が集まり、ホテルエミナースに人工芝のグラウンドがあるので子どもたちと一緒にサッカーをしました。これが最初の活動になります。ちょうどJリーグから原副理事長もこちらに視察にお越しいただいております。一緒にサッカーにも参加していただいております。

20日は大津町でグラウンドを借りました。グラウンド横の体育館も避難所になっていたので、そこの子どもたちも参加しました。選手たちは練習もできませんし、試合もいつからできるかわからない状態でした。19日の段階でボールがあれば子どもたちと触れ合えるという経験をしていましたので、何ができるのかを彼らも考えて、選選手からも話があり、そのような活動をしていきたいと伝えられました。

私の立場はクラブの人間ですので、クラブとしても何かしなければいけない中で、そういう所に行くのは大変ありがたいことで、選手が真っ先に動いてくれたことは感謝していることを伝えました。同時に、やはり余震がまだ続いていましたし、道路に凸凹があるなど危険性がありましたので、十分注意してほしいこと、施設の人々、避難されている方々に迷惑をかけないことを約束し、活動をお願いしました。

私たち事務所の職員は物資基地に行き分けを手伝いました。自衛隊の方々と一緒に仕分けと配送をやりました。

こちらは4月21日、まさにこの写真のとおり、

この部屋でした。いったん解散していた選手を招集しました。クラブはJリーグとも協議していましたが、いつから試合に戻れるのか、また、ホームゲームはいつ開催するのかは不透明な状況でした。自分たちの方向性をどうやって決めるか、どうしていきたくかを決めるため話し合う場を設けました。国内のいろいろな所から、トレーニングを続けたいといけないうという心配の声もあって、チームごと来ないか、施設は提供する、宿泊のほうもコーディネートするという声をいただきました。そういった声をいただいていることを伝え、選手の気持ちを聞いた上で判断しようということ、その場を設けました。選手からはどういうふうにかこの地震のさなかサッカーと向き合っていくか、また、地域の方々とどう向き合っていくか選手達だけで話をしたいということになり、結果、熊本に残り、たとえ練習が満足にできないとしても、自分たちだけがここから離れるわけにはいかない、リーグ戦の再開は分からないけれども、自分たちで責任を持って体を動かしつつ、支援活動もやっていくためにも、ここにいたいという結論を出しました。

2016シーズン振り返り

●20日
ホームに北九州を迎えた第4節。先制を許すが、終了間際に清武が2戦連続となる自身3ゴール目を決めて同点に持ち込む。連勝は3で止まったが4戦負けなしで勝点10の首位。

●26日
第5節・アウェイ長崎戦。清武の3連続ゴール、PKによる先制の一発で今季初ゴールで2-0の完勝。開幕から5試合負けなしで勝点を13に伸ばし、得失点差でC大坂を上回ってクラブ史上初め単独首位に。

4月

●3日
第3節清水戦。攻守両面でゲームの主権を握るが、後半の清水の交代によって流れは清水に移り、72分、74分に大塚元紀に立て替えてゴールを許し今季初敗戦。3位に後退。

●9日
第7節。今季から2位に昇格した山口との初対決。開幕2分にはリスタートから先制を許し、流れを引き戻せないまま後半終了間際にも失点。後半開始直後に早稲の今季2ゴール目で1点を返すが最終には辛らぶ。今季初の連敗。

●14日
21節 26分。熊本地方を震源とするM6.5の地震が発生(当報)。熊本市内を震撃する上益城郡益城町で最大震度7の大きな揺れを記録する。益城町在住の GK 相馬、DF 森川泰田らの実家が被害を受けたほか、郡庁方で続いた豪雨で選手・スタッフは屋外や車中で避難した。

●15日
17日に行われる第8節京都戦に向けたトレーニング。被害の大きさに伴う精神的な変動。また睡眠不足等によるコンディション不良で十分な練習は行えず。この時点で第8節のゲームは予定通り行われる方向で進捗の準備を進んでいたが、ホームスタジアムであるつまがね・よかなスタジアムには支援物資が集められはじめ、ホームゲームの開催が不透明な状況に。

●16日
1時25分。14日の揺れを上回るM7.3の地震が発生(本報)。上益城郡益城町と阿蘇郡西原村で再び最大震度7。熊本市内でも震度6強の揺れを記録。ライフラインや公共交通機関がストップし、第8節京都戦の中止が決定。あわせて、余震の影響でトップチームの活動も18日まで

休止となる(18日には、さらに20日までの休止を発表)。熊本県出身以外の選手は、出身地など県外へ一時避難するが、県内に留まった選手たちは避難所での生活や練習を準備なくされる。

●19日
益城町のホテル敷地に避難している GK 畑の呼びかけで、同施設に避難している子ども達を集めてサッカー交流を実施。選手約10人が集まり、子ども達と一緒にボールを蹴る。同日、23日にホームで予定されている第9節横浜FC戦の中止が決定。選手達は自主的に、避難先でのボランティア活動や、個人的なネットワークを生かした支援物資の呼びかけ、サッカー交流を組み合わせた物資の配送、避難所訪問などを始める。

●20日
選手達は大津町運動公園や福岡町の小学校、熊本市内の高校のグラウンドで子ども達を集めてサッカー交流を実施。

●21日
県外へ一時避難していた選手7名集まったのミーティング。活動拠点を一時的に県外へ移すなど、早期のリーグ戦復帰へ向けプランが表示されたが、5月15日の第13節千葉戦(＠フクアリ)からのリーグ戦復帰と、それまで熊本に残って準備を進めることを決定。

●22日
選手達は益城町でサッカー交流を実施。日本サッカー協会の田嶋会長も来観される。

●23日
第10節山形戦。第11節愛媛戦。第12節札幌戦の中止(基盤)が決定。選手達は熊本市内のスポーツパークでサッカー交流を実施。同日に熊本市内の中学校で行われた歓迎会に参加。

●24日
選手達は高志市でサッカー交流を実施。

●25日
自主練習を開始。選手14人が参加。この日の午後、西川寿作、横野智樹らと浦和の選手達、熊本出身の田中英登(神戸)らが熊本を訪れ、合同でサッカー交流を行う。

●26日
選手達は福岡県でサッカー交流を実施。

●27日
熊本市中心部の東海大学熊本キャンパスで行ったサッカー交流に、V・アールン長崎の黒木也監督、村上哲介、貴父並ららが協力。

●28日
第14節のホーム水戸戦も、スタジアムの安全確認が取れないために中止が決定。代替地はこの時点で未定。選手達は益城町でサッカー交流を実施。

●29日
選手達は高志町でサッカー交流を実施。同日に高野村の避難所となっている小学校に物資の配達などを行う。

●30日
選手達は岡崎市でサッカー交流を実施。

5月

●2日
熊本県の理解と協力を得て、普段のトレーニングを行っている県立総合運動公園サッカー場で全体練習を再開。同日、リーグ戦復帰後のホームゲームとなる第14節水戸戦を、柏レイソルのホームスタジアムである日立柏サッカー場で開催することが決定。

●3日
U-23 日本代表の手倉森誠監督が福岡県を訪れて選手達を激励。

●5日
選手達は甲府や益城町でサッカー交流を実施。日本代表のハリルバエグッチ監督が来観し、交流会に参加。

●6日
選手達は熊本市内でサッカー交流を実施。

それを受けて、Jリーグでも配慮していただき、ロアッソ熊本がいつ戻れるか、何試合離れるのか、どれぐらいの期間になるのか、しっかり話し合っているということになりました。Jリーグからの常駐の職員を事務所につけていただきまして、随時熊本でリアルタイムにお話をしながら日程調整などを進めました。

選手たちはその間、人工芝の少年用グラウンドが1カ所だけ使える状態だったので、午前中はそこでボールを蹴ったり、ランニングをしたり、取り敢えず体を休めないようにしました。そして、午後の時間は、何ができて何を求められているのかをSNSなどで情報を収集しながら、あの避難所にはこれが足りない、あそこでは子どもたちが退屈しているという情報を確認しながら、各地域に選手たちを分散し、よしあそこに行こう、2グループ、3グループに分かれよう話し合いながらやっていました。

いろいろなチームを歩き来してきた選手もあり、サッカーファミリーも全国にいますので、この間、選手会や元ロアッソ熊本の選手などから多くの物資を送っていただきました。また、トレーナーやドクターの関係もあり、医療

メーカーからも、避難所で脚を伸ばせないで血の巡りが悪くなっている人がいるでしょうから活用してくださいということで、ストレッチポールやその他諸々の商品をいただきました。選手たちはそれを持っていろいろな地域に出ていきました。

選手とも話をした上で、5月15日にアウェイの千葉戦からリーグ戦に戻ることが決定していました。熊本県の協力を得て5月2日に練習グラウンドが使えるようになり、全体として正規の練習を再開しました。再開初日は黙とうを行いました。翌日には日本代表のコーチをされていた手倉森さんも激励にお越しいただきました。

5月11日にはJリーグの村井チェアマンも激励という形でお越しいただき、熊本の状況や選手の声聞いていただきました。

5月15日、千葉で第13節を戦い、約1カ月ぶりのリーグ戦になりました。ジェフ千葉が対戦相手だったのですが、巻選手が以前プレーしていたチームということもあり、大変暖かい声援で迎えていただきました。当然、遠征に行けなかったメンバーもいましたので、彼らは嘉

島町の子もたちと交流を持ちました。

この復帰戦はコンディションづくりにプランクがあり、気持ちで戦ったようなもので、途中で脚がつかってしまう選手もいました。選手たちは環境が許す限りの自主トレをやってきましたが、チームとして約2週間全く練習していない時期がありましたし、避難所生活をし、車中泊をしていた時期も長く続きました。1日休むとコンディションを戻すのに何日もかかるので、ベストコンディションまでに調整するにはハードルが高く、結果は0-2で敗戦しました。

その次の週はホームゲームの予定でしたが、スタジアムは使える状況ではありませんでした。避難されている方も生活していましたし、救援物資の集積所にもなっていました。また、建物自体に亀裂が入り、どれぐらいの危険性があるか、問題がないという調査が完全に終わるまでは使えないという状況でもありました。そのため、柏レイソルさんのご厚意で本拠地、日立柏サッカー場をお借りすることとなり、運営のスタッフ、ボランティアの方々にもご協力をいただくことができ、ホーム戦を本拠

2016シーズンの写真

●11日
Jリーグ村井選手会が練習場を訪れて選手達を激励。「困難な状況の中、被災した方達を助けてくれてありがとう。全てのクラブが全面的な支援体制を整えている。1日でも早くつよかな・よかなスタジアムでホームゲームが開催できるよう、行状にも働きかけたい」と話し、悪化が懸念される入場料収入など経営面についてもアドバイスすることを約束した。また、第10節山形戦の前日、第15節ホーム町田戦のつよスタでの開催中止も発表。13日には、東日本豪雨の代替開催日を設定。

●15日
第13節千葉戦（@フアラ）でリーグ戦に復帰。GKには掛橋町田出身の副キャプテン畑が今季初先発。赤足野郎の怪縁で1年以上のリハビリに取り組んできた片山選手が復帰。会場には千葉、熊本サポーターも含めて14163人が詰め、熊本の優勝旗を掲げた。試合は約1ヶ月のブランクによるコンディションの悪化もあって0-2で敗れる。ひとまわりリーグ戦への復帰目標を定めたが、ここからがまた長い道のりとなる。同日に幕島町で「熊本地産復興支援「ロアッソ熊本再活動記念サッカー交流会」を開催し、選手やロアッソくん/アガタマニコーチが子ども達とサッカー交流を実施。

●16日
第15節町田戦の試合会場が「エビススタジアム」神戸に決定。

●22日
第14節水戸戦をホームゲームとして自立柏サッカー場で開催。開幕在任の熊本サポーターのほか、柏のスタッフ。さらには流通経済大サッカー部の一員など多岐ボランティアが勇

●23日
熊本県民総合運動公園で「熊本ととも、～ロアッソ熊本 熊本地産復興支援プロジェクト～サッカー交流会」を開催。ロアッソ熊本の選手達と共に、滝沢弘明選手、長友佑都選手、内田篤人選手、吉田麻也選手など海外のクラブでプレーする日本代表の13選手がサプライズで登場し、子ども達とサッカー交流を実施。

●28日
第15節町田戦。前節に続くホームゲームとして、エビススタジアム神戸で開催。神戸のクラブスタッフやボランティアの他、岡山のリハビリスタッフも運営サポートに参加し、グートや前線陣を担ぎ、2509人の観客が先着中、熊本は水戸戦から先発5人を入れ替えて臨み、シュート数では上回るが前半E、1点ずつ失って敗戦。

●11日
全員の呼びかけをサポートした日か、西チーム以外のサポーターも多数詰め、日立台のゴール裏が初めて赤染まった。観客は6201人。また、熊本市内のアーケードで「復興再生 ロアッソ熊本プロジェクト」が開催され、多くの市民やサポーターがロアッソ熊本のホームゲーム優勝旗と共に熊本から応援を送った。

●23日
熊本県民総合運動公園で「熊本ととも、～ロアッソ熊本 熊本地産復興支援プロジェクト～サッカー交流会」を開催。ロアッソ熊本の選手達と共に、滝沢弘明選手、長友佑都選手、内田篤人選手、吉田麻也選手など海外のクラブでプレーする日本代表の13選手がサプライズで登場し、子ども達とサッカー交流を実施。

●28日
第15節町田戦。前節に続くホームゲームとして、エビススタジアム神戸で開催。神戸のクラブスタッフやボランティアの他、岡山のリハビリスタッフも運営サポートに参加し、グートや前線陣を担ぎ、2509人の観客が先着中、熊本は水戸戦から先発5人を入れ替えて臨み、シュート数では上回るが前半E、1点ずつ失って敗戦。

6月

●4日
第16節、アウェイ岡山戦。前半に先勝を許すも、後半立ち上がり、初先発となったFW アンデルソンがリーグ戦復帰後初ゴールを挙げる。しかし1-2で敗れ、リーグ戦復帰後4連敗、中断前からは連敗6連敗となる。13節千葉戦から毎週続く長距離移動による疲労のしほり、他チームと5試合少ない状況下から19試合まで後退。

●8日
第17節金沢戦。鳥栖の本拠地であるベストアメニスタジアムでホームゲームを開催。これまで試合を共にすることができなかった熊本サポーターも多数来場した。開始1分に平塚が先制点を挙げると、その後清武が追加点。さらに平塚、キム・テヨン、黒本晃平と前半のうちに大連5ゴール、後半に2点失ったが5試合目にしてリーグ戦復帰後初勝利を挙げた。

●9日
熊本県民総合運動公園で「熊本地産復興支援サッカー交流会」を開催。ロアッソ熊本の選手達と共に、日本代表の岡崎慎司選手が登壇し、子ども達とサッカー交流を実施。

●12日
中3日のアウェイ、第18節群馬戦。黒木の2試合連続ゴールで先制も、筑波アビスソルタイムに追いつかれて引分け。しのぎを削る試合展開。

●17日
熊本県の厚待と協力を得て、つよかな・よかなスタジアムが7月から使用可能となり、ホームゲームを開催できることが決定。ただし、観客席として使えるのはメインスタンドの約9000席分のみの制限が設けられた。

●19日
第19節、ホーム浦和戦（@ベアスタ）。浦和と浦和徳大の2ゴールで連敗。3試合負けなしで15位に。

●26日
第20節、アウェイ岐阜戦。先制後追いつかれ、筑波に突き放された5分後にまたも追いつかれるが、アビスソルタイムにキム・テヨンが最後の三ドブルシュートを決めて3-2で勝利。リーグ戦復帰後初の連勝。4試合負けなしで11位に浮上。

●29日
地震の影響で延期となっていた第5節のアウェイ京都戦。セットプレーのこぼれから先制を許すが、交代出場の新井が決め分け、5試合負けなしで暫定10位。

7月

●3日
第21節、ホームゲーム C 大分戦を、4月9日の第7節山口戦以来、84日ぶりのつよかな・よかなスタジアムで開催。メインスタンドのあきあきない状況ながら、8322人の観客が来場。前半8分、今季加入したDF 藤田淳の初ゴールで先制するが、その後は藤田の退場もあって失点を重ね、今季最多5失点で6試合目の黒星。

●6日
中2日で延期となった第10節のアウェイ山形戦。中大戦に続き3バックの布陣で臨んだが、後半のうちに失点を重ね、1-4と2連敗納めの大敗。

●10日
中3日で、第22節の浦和戦。連敗の悪影響が徐々に出現的。0-4と3試合連続の大敗で、暫定順位も14位に。

●16日
第23節、アウェイ三ツツで前線FC戦。ボールを奪いに行くという守備スタンスの原由に立ち寄り、4-0-2の布陣でスタート。開始3分に、初先発を兼任した1年目の八木保がリーグ戦初ゴールを挙げ先制。後半は1人少

2016シーズンの写真

●11日
Jリーグ村井選手会が練習場を訪れて選手達を激励。「困難な状況の中、被災した方達を助けてくれてありがとう。全てのクラブが全面的な支援体制を整えている。1日でも早くつよかな・よかなスタジアムでホームゲームが開催できるよう、行状にも働きかけたい」と話し、悪化が懸念される入場料収入など経営面についてもアドバイスすることを約束した。また、第10節山形戦の前日、第15節ホーム町田戦のつよスタでの開催中止も発表。13日には、東日本豪雨の代替開催日を設定。

●15日
第13節千葉戦（@フアラ）でリーグ戦に復帰。GKには掛橋町田出身の副キャプテン畑が今季初先発。赤足野郎の怪縁で1年以上のリハビリに取り組んできた片山選手が復帰。会場には千葉、熊本サポーターも含めて14163人が詰め、熊本の優勝旗を掲げた。試合は約1ヶ月のブランクによるコンディションの悪化もあって0-2で敗れる。ひとまわりリーグ戦への復帰目標を定めたが、ここからがまた長い道のりとなる。同日に幕島町で「熊本地産復興支援「ロアッソ熊本再活動記念サッカー交流会」を開催し、選手やロアッソくん/アガタマニコーチが子ども達とサッカー交流を実施。

●16日
第15節町田戦の試合会場が「エビススタジアム」神戸に決定。

●22日
第14節水戸戦をホームゲームとして自立柏サッカー場で開催。開幕在任の熊本サポーターのほか、柏のスタッフ。さらには流通経済大サッカー部の一員など多岐ボランティアが勇

●23日
熊本県民総合運動公園で「熊本ととも、～ロアッソ熊本 熊本地産復興支援プロジェクト～サッカー交流会」を開催。ロアッソ熊本の選手達と共に、滝沢弘明選手、長友佑都選手、内田篤人選手、吉田麻也選手など海外のクラブでプレーする日本代表の13選手がサプライズで登場し、子ども達とサッカー交流を実施。

●28日
第15節町田戦。前節に続くホームゲームとして、エビススタジアム神戸で開催。神戸のクラブスタッフやボランティアの他、岡山のリハビリスタッフも運営サポートに参加し、グートや前線陣を担ぎ、2509人の観客が先着中、熊本は水戸戦から先発5人を入れ替えて臨み、シュート数では上回るが前半E、1点ずつ失って敗戦。

地以外で開催することになりました。ホームゲームだったということで、パブリックビューイングを熊本市内の商店街のアーケードの中で開催しましたが、この試合も敗戦でした。

5月23日には大きなイベントを行いました。口アツ熊本が子どもたちと一緒にサッカーをしますということで、県下各地域に声を掛けて約290名の方が集まりました。当時口アツ熊本に所属していた清武功暉選手のお兄さん、清武弘嗣選手が中心となり日本代表や海外で活躍している選手などそうそうたるメンバーに集まっていただき、サプライズで飛び入り参加するという企画で大盛況でしたが、会場周辺は大変パニックになった覚えがあります。

ホームゲームは熊本でしばらくできないという状況の中、どうやってホームゲームを開催するかということを考えなくてはなりません。Jリーグとともに諸策検討した結果日立台、神戸のノエビアスタジアム、鳥栖のベストアメニティスタジアムをご自身たちのホームゲームをやっている中、お借りすることができ、ホームゲームとして開催させていただきました。

した。県外でのホームゲーム開催3試合を行いました。

6月9日には岡崎慎司選手にもご来熊いただきサッカー交流会を行いました。

7月3日、熊本県の大変なご尽力によりスタジアムの部分的使用を認めていただき、セレッソ大阪を迎え、リーグ戦復帰後、初の熊本でのホームゲームを開催しました。バックスタンド、ゴール裏はクローズ、メインスタンドのみ開放してのホームゲームでしたが感慨深いものがありました。

3. 選手たちの活動(資料7)

ここまで、地震の直後から3カ月、4カ月の一番激しい時期を時系列でお話ししました。その間の交流会は、子どもたちと一緒にサッカーを楽しみ、体を動かし、元気を取り戻してもらおうという趣旨で行ってまいりました。

選手、マネジャー、トレーナーが届いた物資をチームの用具車に乗せて避難所を幾つか回っていました。4月19日、私が避難していた所にも彼らが事前の連絡もなくいきなり来てく

れて、ここにいたのですかという話になりました。選手は自分でチームの荷物車を運転し、あちらこちらで物資配達、サッカー交流会を行っていました。

4月20日には大津町のグラウンドでもサッカー交流会を開催させていただきました。本来ですと、芝のメンテナンスがしっかりされている所でしたが、やはりそれどころではなく、しばらく水やりなども全くなかったため、芝は荒れていました。熊本にはいろいろなキャンプチームが来ますので、激しく使った後に数日間放置しておくで荒れ放題になります。

グラウンドは地震による亀裂はなかったですが、建物や球技場のメインスタンドの中は危険で、こちらもしばらくクローズでした。その横に体育館があり、こちらは天井が落ちまして、避難されている方はロビーでしか生活ができず、大変窮屈そうでした。そこに子どもたちが何人もいて、トレーニングジムを寝床にしていました。

4月25日に浦和レッズの植野選手、西川選手、李選手、熊本出身のヴィッセル神戸の田中選手が日帰り来てくれて、サッカー教室、交

なくなる中で横浜FCの攻撃を耐えられ、試合にPKを許して同点。追撃を止めて15位に固みどまりました。

●19日
釜ヶ崎町出身で自宅が被害を受けた森川泰彦の、J3移籍後の期限付移籍を発表。同日、関東2部リーグのLB-BQB TOKYOから、熊本県出身のFW若杉拓也の加入も発表される。

●20日
中3日で第24節、ホームの徳島戦。立ち上がりから押し込まれる苦しい展開となる中、これまでのゲームで見せた課題を修正。87分の清武のゴールで、7試合ぶりとなる完封勝ち。全42試合の半分にあたる21試合を8勝4分9敗という数字でターンした。

●23日
C大阪からDF小谷祐樹の期限付き移籍加入を発表。

●24日
第25節、アウェイ金沢戦。全労ベースで激戦中、0-0で引き分け、2試合連続完封。3試合負けは14位。

●31日
第26節、アウェイ東京V戦。決定権は作りながら両陣営を欠いて得点を奪えず、結果に1点を失い4試合ぶりの敗戦。17位に後退。

8月

●6日
7月末からトレーニングに参加していたMF菅沼亮の加入を発表。背番号は41に決定。

●7日
好調の長崎を迎えた九州ダービー。出居やホルン部の争いでも後手を踏み、リードされた展開。終了間際に追加ゴールを許した後、アディショナルタイムに植田謙二郎のゴールで1点返すが、僅差での敗戦。

●11日
第28節、アウェイ水戸戦。前節の課題を修正して連戦した攻撃を見せ、前半に清水のゴールで先制。しかし後半立ち上がりには隙を奪われて失点。追撃は止めたが3試合連続で18位に後退。



●14日
中2日で第29節、ホーム千葉戦。攻撃にメリハリが利いたプレーを見せ、前半に千葉のゴールで先制する。後半にも岡本が2得点を挙げて3-0の快勝。5試合ぶりの勝利で14位に浮上。

●19日
7月からメインスタンドのみの使用となっていたうまかな、よかぬスタジアムのサイドスタンド、バックスタンドの安全点検が終了。8月31日のホームゲームからゴール裏スタンドが使用可能になったことが発表される。

●21日
第30節、北九州戦。この試合から3週間最大7試合という、超満員日程の連続がスタートし、前半のうち4失点。後半立ち上がり1点差に追いつくものの追いつけられず、さらにアディショナルタイムでも失点と、今季ワーストの6失点で惨敗。

●25日
中3日、延期となっていた第12節のアウェイ札幌戦。新加入の小谷祐樹と菅沼亮が初先発したが、0-1で敗れ負け。

●28日
中2日で熊本に帰る。佐賀県代表のF.C.TOSUとの天皇杯1回戦。圧倒的にボールを握ってゲームを支配。決定権を握るが相手の堅い守備を崩せぬ展開。前半終了間際に千葉のゴールで先制も、後半立ち上がりにも自点とされ、終了間際ようやく逆転し、2回戦進出を決める。

●31日
中2日、延期となっていた第11節愛媛戦。菅沼の加入で前節0-1で先制するが、後半に2点を失い逆転負け。リーグ第3連敗。

9月

●3日
天皇杯2回戦に東京Vを迎える。平塚のゴールで立ち上がり0-1で先制したが、前半に1点。後半にさらに4点を失い1-5の大敗。

●7日
延期されていた第9節の横浜FC戦。チャンスも作ったが得点を奪えず。逆に終了間際の85分に失点して4連敗。これで地震の影響で延期となっていた5試合を全て消化したが、結果として得た勝点は京都に引き分け1点のみで、他チームが試合のない間に勝点を積み上げていくという思いはかなわなかった。

●11日
10日前に代替日程で対戦したばかりの愛媛とのアウェイ戦。ここまで予定だった順位も16位で確定している再スタート。立ち上がりの相手のゴールで失点。結果、5-5連敗。7連敗で勝ったのは天皇杯1回戦のみに終わった。

●16日
2年目のMF飯元大希のドイツ6部リーグブンデスリガへの完全移籍を発表。

●18日
第32節、岡山戦。代替日程のゲームを全て消化して通常のサイクルに戻ったことでコンディションも回復。前半は岡山に押し込まれる展開となるが、後半は流れを引き寄せて決定権を翻し、最後の精度を欠いて得点は奪えなかったが、6試合ぶりに無失点で勝点を1点加える。

●25日
第33節、山形戦。前節に続いて無失点も、得点を奪えず2試合連続クローズ。しかし順位は1つ上げて17位。結局、9月の4試合は無得点で2分2敗に終わった。

●30日
FWアンデルソンとの契約解除を発表。

10月

●2日
第34節、アウェイ山口戦。前半のうちこそ菅沼、植田のゴールで先行し、2-0で完勝して3連勝継続。8試合ぶりの白星で勝点を38に伸ばし、15位に浮上する。

●8日
第35節、ホーム群馬戦。海苔の今季10点目となるゴールで先制するも、後半立ち上がりにも失点。以降、受け身になる展開となる。試合終了間際、上原からのクロスを見逃し、一瞬だけ押し込まれるが、最終的に引き分け。しかし4戦負けなしで15位を維持。村上がこの試合で加入後初先発。フル出場を果たした。

●9日
熊本地震で最大な被害を受けた豊原商店街で「口アツ!熊本ファン感謝祭 supported by えがし」として復興支援イベントを開催。選手会での復興支援チャリティオークション、復興支援するまい。過去の公式戦で選手が着用したユニフォームでのチャリティ募金活動、熊本県出身の田中英雄選手から寄贈された神戸、仙台、神戸市長の皆様からのメッセージが入ったTシャツ

子ども達へプレゼントするなどのイベントを実施。多くのファン、サポーター、地元の方が笑顔。笑顔が見られる交流会となった。

●16日
第36節、アウェイ町田戦。序盤にPKを奪えるがGK佐藤が折り返しを突き寄せ、しかし後半立ち上がりにも先制して5試合ぶりの勝利。17位に後退して6位未満との順位差が20となり、今シーズンのプレーオフ進出の可能性が薄減。

●23日
第37節、アウェイ浦和戦。スコアレスドローで勝点1を加えたが、前節東京Vが札幌に勝ったため18位に後退。

●30日
第38節、高位札幌をホームに迎えての一戦は、立ち上がりから主導権を握る展開。3トップの中央に千葉、左に清武を置いたことで攻撃のコンビネーションが活性化。11分にはカウスターから得たPKを清武。後半の65分には左からのクロスを手堅く決め、守っては札幌のシュートを5本に抑え込む。再び15位となり残留に向けて1歩前進した。

11月

●3日
第39節アウェイ熊本戦。前節に続いての上位争いを狙い、押し切って守備から入る戦い方を選択。前半から押し込まれる展開となる中で先制してゲームを振り回したが、一瞬の隙を突かれる形で見逃す。連敗はならず、勝点で並んだ東京Vを得失点差で下回りの16位に。

●6日
第40節、ホームでの京都戦。残留を決めるために連戦は避けたい一戦だったが、ゲームの入りから京都に圧倒されて立ち上がりから2点のロハインド。後半開始から右サイドに流れを戻すが、反響は最終の1点に留まり連敗。18位を下げて残留は決定できず。

●12日
ホーム最終戦となる第41節の徳島戦。前半35分、左からの展開をデキバ良くつなぎ、右サイドを駆け上った植田からのラストパスを清武が足定で流し込んで先制。シュート数は8対0と相手より1本下回ったが無失点に見え、完封で12勝目を挙げ、非常に苦しいシーズンながら自力での残留を確保。試合後のテレビでは、池野社長、高川監督、熊本市長が各方面からのサポートに対するお礼の言葉を述べた。

流会を一緒にやっていただきました。突然の参加だったので、子どもたちは大変びっくりしていましたが喜んでいました。

4月29日、阿蘇では高森町と南阿蘇村という所に行き、活動しました。阿蘇に行く橋が崩落したので通常のルートでは行けません。自衛隊が緊急で山道を越えるコースを開拓してくれていましたのでこちらを使いました。通常ですとここから1時間に到着できますが、1時間40分くらいかけて、大回りをして行きました。

高森町は大きな被害はなかったのですが、やはり子どもたちの精神的ストレスが大変で、夜になると子どもたちが不安がるという話を聞きました。また、南阿蘇村は先ほどの橋が落ちた所の村です。多くの方が土砂崩れや、建物の倒壊により亡くなられました。

トレーナーがストレッチ道具を持っていきまして、お母さんたちも一緒にストレッチしませんかということで、ブルーシートの上で青空体操も行いました。その後、笑顔になられたので大変良かったと思いました。

5月5日こどもの日です。ハリルホジッチ監督、日本サッカー協会の田嶋会長もお越しいただきました。巻選手は全国にいろいろなネットワークを持っていて、こどもの日だったのでケーキ屋さんからケーキが届けられ参加した子どもたちにプレゼントしました。

5月23日に日本代表の海外組が来た時の写真です。そうそうたるメンバーが来てくれましたが、この部屋で着替えたりしていました。すごく明るい雰囲気をつくっていただきました。また、長友選手は交流会前にクラブハウス内で体幹トレーニングをしていたので、これこそプロだと思いました。お弁当を用意しましたが、自分のコンディションにはこれが足りないからということで、近くのお弁当屋さんに行き自分で買って食べて飲んでと、ここにもプロの一面を見ました。もちろん好き嫌いはありませんでした。

他には、雑草の生えた土のグラウンドでの活動もありました。プロ選手はなかなかこういう所ではやりませんが、それは関係ないという気持ちだったようです。子どもたちとボールを蹴ろう、体がなまっているだろうから良い疲労感をもってもらおう、今までのように日常の学校生活で感じる疲れたという感覚を取り戻してほしいという気持ちであったと、私も選手たちから聞いていました。

バーベキューをしようと計画もしました。選手が子どもたちの前で焼いて、振る舞っていました。お母さんも子どもたちが選手たちと一緒に

にいる時はすごく嬉しそうな顔をしていました。

イラストレーターの日比野克彦さんも来られました。熊本とロアッソ熊本を応援する絵を描きたいということで、選手も参加して地元の美術関係の方々と一緒に絵を描く機会をいただきました。

去年までスクールコーチをやっており、今年からチームスタッフとして入る藤本主税もいくつかの活動に参加し子どもたちを指導しました。

ロアッソ熊本には益城町出身の上村選手もおります。益城町のサッカーチームと一緒に募金活動を行いました。子どもたちはこれまで練習してきたグラウンドが地震で使えなくなってしまいました。練習する場所がなくなった子どもたちのために、グラウンドを作ろうという有志のプロジェクトがありましたので、そこに協力するという形で行いました。

ここまでイベント、行事、選手たちの取り組みをご紹介しました。どこかに行く時はクラブへ必ず報告してほしいと言っていました。私たちはクラブとしていつリーグ戦に戻るか、どうやって収入を確保するか、そういったところを最優先に考えていました。給料も払わなければいけませんし、地元熊本で試合を開催することが熊本の人たちを元気づけられるのではないか、県民にとってサッカーを見ていただくことが力になるのではないかとということで、いつリーグに戻れるかという調整を県やJリーグと協議を行っていくこと、また、日頃お世話になっているスポンサーさんのところにお伺いし、コミュニケーションを取っていくことを最優先としました。

選手にしてみれば、クラブはもっとチームとして地域での活動をやるべきではないのかという思いを持っていた者もあり、そこでぶつかった時もあります。その時には、やはり私たちはここで試合をするためにやらなければいけないこともあるし、あなたたちに給料を払わなければいけない、市民生活を担保しなければいけないということで分かってほしいと伝えました。だから彼らの活動はクラブの主催や企画ではなく、本当に彼ら自らの気持ちのところで動いていました。クラブはそこに乗っかっているのではないかとこの声も選手たちから聞こえてきましたが、仮にそうであったとしても、そう思われたとしても仕方ないということが現実です。

それでも時期が来たらいろいろなことが落ちていくだろうから、その時にクラブとし

て企画した行事や、地域から求められている活動をしっかりやっていこう、その時にまた協力してほしいという説明をしました。

クラブスタッフも少し落ちてきたら、一緒にいける所には行かせてもらいました。避難所に行くことは、そこで仕事をしている行政の方々や自衛隊の隊員がコントロールしている中に入ることになります。選手が訪問し、何かやりやすくなって、喜ばれる反面、コントロールされた状況を乱す可能性があります。そういうところを私たちがしっかりとコーディネートしようという気持ちで幾つか対応していききました。

選手たちの活動はこういった形です。一番多かったのは、トレーニングを再開する5月2日までの約2週間で、何回行ったか分からないくらい選手たちは本当に精神的に動きました。1日2カ所、3カ所、毎日やっていました。午前中は自主練習でしっかり体を動かす。高齢者や子どもたちには、話し相手になるだけでも力になるという信念を持っていたので、午後はできるだけいろいろな所に行っていました。

7月3日、熊本にホームゲームとして帰り、そこから11月まで、リーグ戦の間に天皇杯なども含め、1カ月に7試合やったこともありました。本来の1週間ずつの試合の合間の水曜日に試合が入ってくることになりました。

過密日程になり自分たちがそれまでしていた地域での活動はなかなかできなくなりました。

時期が来たらクラブが企画をしっかりやっていこうということで、地域の活動は継続していきました。健軍商店街という商店街がつぶれてしまった地域で、私たちが例年やっているファン感謝祭を復興支援の活動として、地域を盛り上げるために選手を呼んで地元の方やファンとの交流会を開催しました。

この辺りから、県外、全国からいろいろな方々や団体が、イベントを企画して持ってきてくださり、それにロアッソ熊本が人員や場所の提供で協力する形が増えてきました。

年末にはJPBPA（日本プロ野球選手協会）と日本プロサッカー選手会が協力し、それぞれ10名ずつぐらいのサッカー選手、プロ野球選手が益城町と阿蘇西原村で活動を行いました。サッカー教室と野球教室を同時にやるということは、子どもたちもめったにない機会です。サッカーをやっている子どもたちはプロ野球選手に接し、野球をやっている子どもたちはサッカー選手に接するいい機会でした。私たちだけでは実現できない機会を、周りの方の力を

お借りしてやっていった一つの形です。

年が明けると、「ボールゲームフェスタ」が開催されました。日本トップリーグ連携機構が企画しまして、ラグビー、サッカー、バスケット、ハンドボールなどのプロ選手が子どもたちを4グループに分けて、専門競技がサッカーであっても、この時間はラグビーをしましょう、バスケットをしましょう、ハンドボールをしましょうと、回していきました。普通の競技とは違ういろいろな体験をする趣旨が込められていて、とても面白い時間を子どもたちは過ごしました。私たち運営側からすると、こういう企画があるのだという感想を持ちました。

いろいろなスポーツがタッグを組んでやる企画は、2017年にロアッソ熊本も関わりました。4つほどありました。主催はそれぞれ違いますが、競技もその都度違いますが、サッカーとバスケット、ラグビー、ゴルフ、ハンドボール、バドミントンなどが連携を取りながら、地震もあったけれども頑張ろうと、子どもたちにいろいろな競技、いろいろな可能性があることを伝えながら、活動しました。

イベントをコーディネートする側からすると、ニーズと思いが一致しない時期もありました。今後も地震から1年、2年、3年経って、復興支援という形で活動は継続しなければいけないのですが、地域が何を求めているのか情報を集めなければなりません。例えば、10年後に当時まだ生まれてなかった子どもたちが、復興支援でロアッソ熊本が来ましたと言って

も、おそらくピンと来ないところもあると思います。仮設住宅がまだありますが、そこでスポーツをといっても押し売りになってしまうこともあります。その場でどういったものが喜ばれるのか、本当に身になるもの・ことをコーディネートする要素が必要だと思っています。知恵を絞りマッチングさせていくことをやっていかなければいけないと思っています。日本のJリーグの傘下で活動させてもらっていますので、今後もいろいろな支援をご用意いただくこともありますし、地元からもこういうことをやってほしいということもあります。自分たちではできないこともありますので、いろいろな人の力を借りながら、それぞれの思いがマッチしていくような企画をやりたいと思っています。

2017年4月16日、地震から1年、ちょうどホームゲームとなり、復興マッチとしてJリーグに組込ませていただき地元で開催させていただきました。

やはりロアッソ熊本としては地元のスタジアムで良い試合をして、たくさんの人に応援に来て肌で試合を感じていただき、いい意味での非日常的興奮を持っていただくことが今後の活性化、復興につながると考えております。もちろん、復興支援活動もしていかなければなりませんけれども、ここで行う試合の一つ一つを大事にしながら向き合っていきたいと思っています。ありがとうございます。

4. 質疑応答

飯田 ありがとうございます。われわれは、どちらかという選手を中心にすることが多いのですが、今回はフロント側から、特に最前線で、選手とクラブの間でつらい思いをされている首藤さんだからこそその、実体験に基づいたお話をいただけたかと思っています。織田秀和GMと筑城和人強化担当もいらっやっておりますので、もう少しお話しをお聞きしたいことがありましたら、宜しくお願いします。

齋藤 今日は本当にありがとうございました。二つの点で質問があります。震災後にボランティア活動として復興の支援をされてきている中で、先ほども少し織り交ぜていただきましたが、組織としてもっとこうすればよかったという点と、もう一つは、実際こういったご経験をされて、サッカーで強くなる以外に、事前にこういう準備をしておけばよかったというものがあれば、教えていただければと思います。

首藤 さまざまな活動の中の反省点と課題に関しては、先ほどもお話ししましたとおり、どこでどういう声が挙がっているのかをしっかりと聞いて、その時々合った活動をしていかなければいけないというのを感じました。

また、選手たちは、活動しなければいけないという気持ちで行動しており、わたしも会社の業務はそこそこに、いろいろな活動をしていきたいという思いもありました。しかし、いやいや、それも大事だけれども、時期的に今はやるべきではないだろうと揺れていました。

今でこそこう思うのですが、当時は冷静なる頭がどうしてもなくて、自分の家のことも、生活のこともありますし、ロアッソ熊本という大きなものを抱えている葛藤はありました。そこで何日間かロスしたかもしれません。もう少し冷静さが必要だったと思います。また、東日本大震災の際にベガルタ仙台さんやいろいろなクラブが行った活動をもっと勉強しておくべきだったと思います。それが今回の課題につながっていたと思います。

また、物資的な備蓄が何もありませんでした。トレーニングで使うので飲料水は若干ありました。それもチームの皆を賄うほどはありませんでしたし、食べ物もありませんでしたので、そこら辺の備えは必要だったと思います。かといって、今備蓄があるかというとは実はないです。ただ、ああいうことを実際に経験して、ひょっとしたら家に防災道具を置いてい



ミーティングの様子

る選手はいるかもしれませんが、私も家に置きました。そういう備えはあって困るものではない、やっておかなければいけない、でも、気が緩むとうっかり忘れるところですよ。

飯田 他にいらっしゃらないようでしたら、私からいいですか。有名選手が来られて嬉しい反面、空間が乱れるというようなことを先ほどおっしゃいました。例えば、行政や自衛隊の活動している所に選手が行って、これは失敗した、こういうやり方をすれば良かったなど、どちらかというとか失敗したと感じたものはありますか。

首藤 益城町や南阿蘇はかなりひどい被害があって、避難されている方、町のため、人のために働いている行政の方はやはり緊張感を持たれていました。ご本人たちも家に帰れないし、家族を置いてやっている、そういう所に行くこちらの立ち振る舞いには気を遣いました。熊本市も場所によっては被害がひどかったですが、そうでない場所に行くと、そこの子どもたちやそこを管理している方たちのテンションが違います。同じテンションで行ってしまい、空気を乱すことがあったので、やはりそこの方々の顔色を見て、自分たちの言動を変える必要が

あると思いました。大人のマナーとしてやらなければならぬことです。

混乱を招かないために事前に連絡しようという気持ちもありましたが、そうすると受け入れる側が構えられてしまって、本当にイベント的になってしまうだろうと、そこはしませんでした。しかし電話をしておけば、先方からこういうことは気を付けてくださいというアドバイスがいただけたかもしれません。

相澤 ありがとうございます。丁寧に説明していただき、勉強になりました。運営のことで資料（ロアッソ熊本2017活動報告書）を見せていただくと、スポンサー収入やスポンサー協賛社数が増えています。基本的に、スポンサーは何を期待してロアッソ熊本に協賛をしているのか、震災後、新しく増えたのはどのような業種の人たちなのか、もし分かれば教えてください。

首藤 基本的に、うちのスポンサーは地場が多いです。地域貢献、県民チームで活動していますので、地元の力になればということで応援していただいています。

地震の後に大きなスポンサーに幾つか入っていただいています。マイナビ様はベガルタ

仙台もご支援されていましたが、やはり復興支援の観点で地震の翌年から支援いただいています。

齋藤 今の関連です。サポーターが震災後が増えたり、ロアッソ熊本がよりこの地域に強く根付くようになったりなど、肌感覚で結構でするのでお分かりになれば。

須藤 単純にチケットで言えば、地震の後は落ち込みました。やはり日常に戻れない方もいらっしゃいます。肌感覚として増えたかと言われると、まだそうではないです。しかし昔から応援していただいている方はより一層熱心にロアッソ熊本を応援していただけるようになりましたし、ロアッソ熊本という名前が皆さんに知っていただいたと思います。

飯田 それでは時間も参りました。首藤さん、本日は本当にありがとうございました。また、織田GM、筑城さんも同席いただき感謝申し上げます。



ロアッソ熊本スタッフとの集合写真